



# 北海道医師会 だより

## 札幌市医師会 「市民医療フォーラム2010」

札幌市医師会 地域社会部長 鈴木伸和

去る10月23日（土）午後1時より札幌市民ホールにおいて市民医療フォーラム2010を開催しましたので、その概要について報告いたします。

このフォーラムは、市民のニーズに沿った健康と医療をテーマに掲げて、障害者を含めた多くの市民に参加していただくとう平成16年から企画されているもので、今回で7回目になります。当日会場には1,203名の市民にお越しいただきました。

開会に先立ち主催者を代表して札幌市医師会の山光進会長が、共催者を代表して上田文雄札幌市長が挨拶に立たれました。

今回の市民医療フォーラムのメインテーマは「私たちが安心して医療を受けるために～安全保障としての医療制度～」です。

第一部の基調講演は外交ジャーナリストで作家の手嶋龍一氏にお願いしました。手嶋氏はNHKワシントン支局長を務め、2001年9月11日の同時多発テロ事件で、11日間の昼夜連続の中継を担当し、その冷静で的確な報告が視聴者の圧倒的な支持を得た方です。

手嶋氏の講演テーマは「国家と暮らしの安全保障～日本の針路を考える～」で、前半にわが国の皆保険制度の素晴らしさを語られました。話の中で、アメリカ合衆国ではオバマ大統領が8,000万人の無保険者を救うために医療保険制度改革を行ったもののその評判が悪く、中間選挙での大敗北が予想されていることを紹介されました（実際に大敗しました）。しかし、同じように評価を下げている民主党の菅総理とは、何かをして下げると何もしないで下げるとで大きな違いがあると指摘し、会場から拍手喝采を浴びていました。

政府民主党批判の流れで、専門の外交問題の話に

移りました。話題の主演は尖閣諸島問題です。中国側からの強硬措置に屈して、巡視船に衝突してきた中国人船長を早々に処分保留釈放してしまったことを、愚かな対応とぼつさり切り捨てていました。彼いわく、わが国が圧力をきちんとはねのけていれば向こうは必ずおりてきたのだそうです。それは過去の中国の対応を見れば自明の理であり、今回の件でクリントン国務長官が「尖閣諸島は日本の領土であり、日米安保条約の適用対象」と述べて、有事には第5条に基づき武力発動の用意があることを表明しても中国が沈黙し続けているのがその証拠と述べられ、「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」というビスマルクの言葉を引用して、民主党の愚かさを嘆いていました。

第二部はまず初めに3人の先生方に順に講演をしていただきました。

講演のトップバッターはこの会の常連、五輪橋産科婦人科小児科病院名誉理事長の丸山淳士先生です。テーマは「わが国の医療のいいところ、悪いところ（総論）～他国（スウェーデン）と比較して～」です。丸山先生は昨年5月に1ヵ月に渡ってスウェーデンに滞在された経験をお話し下さいました。そこでご紹介いただいた同国の福祉サービスの手厚さと負担割合の大きさは、まさに高福祉・高負担国家そのものでした。ただわが国の医療システムで優れている面も挙げられました。それはアクセスのよさです。スウェーデンの場合は家庭医が決められておりしかも予約制のため、受診まで2週間前後かかるのが普通で、救急病院に行った場合でもだいたい8時間は待たされるのだそうです。

次にご登壇されたのは斗南病院院長で北海道大学名誉教授の加藤紘之先生です。「病院はいつも戦場～安全な医療をどう守り育てるか～」というテーマでお話をいただきました。冒頭から医療事故の話が述べられて、いかに医療が危険なことなのかを市民の皆さんに訴えられました。では安全な医療を受けるためにはどうしたらいいのか、それは医療者任せにするのではなく、患者さんも一緒になって取り組むことだと述べられました。医療者側と患者側双方が互いの信頼を基盤に一緒に医療をやりたいと強調されました。そして最後に安全な医療が保障されるために信頼できるかかりつけ医をつくるのが大切だと締めくくられました。

講演のトリを飾られたのは、しらかば泌尿器科クリニック院長の大野一典先生です。大野先生のテーマは「診療所の担うべき役割とは～開業医が抱える問題点～」でした。大野先生は勤務医の激務がマスコミで取り上げられる中、開業医があたりも楽をして儲かっているという風潮がまかり通っていることを嘆かれ、市民の健康を守るためにいかに開業医が多く役割を果たしているのか、会場に来られた一般の方々にも分かりやすくご説明いただきました。

3人の先生方のお話が終了後、橋本登代子アナウンサーの司会の下、手嶋龍一氏も交えてパネルディスカッションを展開いただきました。そこで改めて今回のテーマ「私たちが安心して医療を受けるために」について語られましたが、加藤先生は重ねて患者さん自身が一緒に医療にかかわる姿勢をとることの重要性を語られました。

市民医療フォーラムでは参加された市民にアンケート調査を行っています。今回回答いただけたのは856名でしたが、講演内容の評価では「大変良かった」とご回答いただいたのが52.2%、「良かった」が31.5%をあわせて83.7%の方から良かったとの回答

をいただきました。これはおおむね例年通りの数字です。

具体的な感想としては「どの先生のお話も大変興味深く、患者は全てを医療機関にゆだねるのではなく、一緒に医療をつくっていく必要があると感じた」「海外の医療と比較することで、日本の医療制度の高さを誇りに思った」「手嶋氏の臨場感あふれる流れるようなトークにひきつけられた」などが寄せられました。また「基調講演の時間を長くして欲しい」という要望もあり、これは手嶋氏自身も講演中におっしゃられたことであり、今後の検討課題にしたいと思います。



山光進会長



上田文雄札幌市長



手嶋龍一氏



丸山淳士先生



加藤紘之先生



大野一典先生